

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門Ⅱ・成人看護学	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師 専任教員
授業科目名	成人看護学概論	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>目的 = 単元A =</p> <ol style="list-style-type: none"> 生涯発達論や他者との相互性、また生活や仕事といった概念に基づいて論理的に学ぶ。 個人、家族や社会における様々な集団を看護の対象とし、その人らしくあることができる看護の基本となる考え方や方法論について学ぶ。 <p>= 単元B =</p> <ol style="list-style-type: none"> 大人の生活から捉える健康を統計的に考え、健康に及ぼす因子について学ぶ。 成人期の生活と健康を守るための保健・医療・福祉システムの概要と連携を学ぶ。 <p>目標 = 単元A =</p> <ol style="list-style-type: none"> 成人各期における発達段階とその特徴を理解できる。 成人の生活を営むことの意義とアセスメントポイントを理解できる。 成人の健康行動を理解し、促進するための看護アプローチについて理解できる。 急激な健康破綻をきたした人の特徴とその看護について理解できる。 慢性的な健康状態の特徴と病みの軌跡を理解し、セルフケアを支える看護を理解できる。 理論で事例を捉え、どのような援助が可能か考えることができる。 終末期医療に関する概念を理解できる。 <p>= 単元B =</p> <ol style="list-style-type: none"> 大人の生活状況の特徴を統計から理解し、健康との関係について理解する。 QOLの観点から大人の健康を理解する。 健康を守りはぐくむ保健・医療・福祉システムの概要と動向を理解する。 地域社会及び職場における大人のヘルスプロモーションを促進する看護について理解する。 健康バランスに影響を及ぼす要因から、看護にとっての健康とは何か考えることができる。 				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	対象の理解 1 生涯発達の特徴 2 各発達段階の特徴		講義
	2	2 各発達段階の特徴 対象の生活 1 生活を営むこと 2 仕事をもち、働くこと		講義
	3	成人への看護アプローチの基本 1 大人の健康行動のとらえ方 2 行動変容を促進する看護アプローチ 3 症状マネジメント～基盤となる考え方～ 4 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 5 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 6 チームアプローチ		講義
	4	7 看護におけるマネジメント 8 看護実践における倫理的判断 9 意思決定支援 10 家族支援 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 1 急激な健康破綻をきたした人の特徴 2 健康破綻による危機状況と危機にある人々への支援 慢性病とともに生きる人を支える看護 1 慢性病と慢性病をもつ人の特徴 2 慢性病とともに生きること		講義 個人ワーク
	5	理論に基づいた各事例の考え方 ・フィンの危機モデル		共同学習
	6	理論に基づいた各事例の考え方 ・病みの軌跡		共同学習
	7	3 慢性疾患患者のセルフマネジメント能力を高めるアプローチ オレムのセルフケア理論 終末期医療に関する概念		講義
B	1	大人の生活からとらえる健康 1) 大人の生活の特徴 2) 大人の健康の状況		講義
	2	3) 大人の健康		講義
	3	生活と健康をまもりはぐくむシステム 1) 保健・医療、福祉の概要と動向		講義
	4	ヘルスプロモーションと看護 1) ヘルスプロモーションとは 2) 個人の主体的な健康づくり 3) 健康増進のための環境づくり		講義
	5	ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動 1) 地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護 2) 職場における大人のヘルスプロモーションを促進する看護		講義
	6	健康バランスの構成要素 健康バランスに影響を及ぼす要因		講義
	7	生活行動がもたらす健康問題とその予防		講義
学科終了試験				
【使用テキスト】				
①専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学[1]（医学書院） ②国民衛生の動向（厚生労働統計協会）				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50%				
<p>A内訳： 筆記試験 85%、授業態度及び課題・GW等の取組姿勢 15%</p> <p>B内訳： 筆記試験 90%、授業に臨む姿勢 10% 授業欠席の場合 減点</p> <p>・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得)</p>				
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員と実務経験がある看護師・保健師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・成人看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 専任教員
授業科目名	成人看護学方法Ⅰ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<目的>				
単元A	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患における急激な健康破綻に陥った対象の看護を学ぶ。 1. 循環器疾患患者に多くみられる症状を理解し、看護活動について学ぶ。 2. 心筋梗塞の病態生理と症状を踏まえ、心筋梗塞患者に行われる検査、治療について学ぶ。 3. 心筋梗塞患者の看護を看護過程にそって学ぶ。 4. 主要な循環器疾患患者の看護活動のポイントを学ぶ。 			
単元B	<ul style="list-style-type: none"> 5. 成人の急激な健康破綻に陥った人の特徴を理解し障害の状態に応じた援助方法を学ぶ。 6. 成人のセルフケアの再獲得に向けての看護について学ぶ。 7. 健康障害をもちながら生活する人のセルフマネジメントに向けての看護について学ぶ。 			
<目標>				
単元A	<ul style="list-style-type: none"> 1. 胸痛、呼吸困難、失神、ショックの症状から考えられる疾患と看護のポイントを理解できる。 2. 心筋梗塞患者に行われる検査、治療や処置について理解できる。 3. 急性心筋梗塞患者の看護（急性期）を理解できる。 4. 心臓リハビリテーションと看護について理解できる。 5. 急性心筋梗塞患者の看護を看護過程にそってアセスメントでき、看護活動を理解できる。 6. 狭心症患者へ生活指導のポイントを理解できる。 7. 不整脈のある患者の看護のポイントについて理解できる。 			
単元B	<ul style="list-style-type: none"> 1. 現在の消化器疾患に関する医療の動向を踏まえ、身体的・精神的・社会的問題を考えることができる。 2. 消化器症状に対する看護および検査・治療・処置を受ける患者の看護について理解する。 3. 消化器疾患患者が受ける内科的・外科的治療の看護について理解する。 4. 対象の情報から根拠を明らかにし、問題解決ができる思考過程を踏むことができる。 			
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	事前学習：心筋梗塞【分類、病態生理と症状（合併症を含む）、検査、治療、看護】		講義 DVD 個人ワーク GW 小テスト
	7	<ul style="list-style-type: none"> 1. 循環器の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> 1) 心臓・循環器系に関する基礎知識 2. 虚血性心疾患患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 心筋梗塞患者の看護 2) 狭心症患者の看護 事例展開：急性心筋梗塞患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> 3. 不整脈患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法の看護のポイント 2) ペースメーカーを装着した患者への看護のポイント 		
B	1	医療の動向、患者の特徴 患者の経過と看護		講義
	2	消化器疾患患者に見られる症状について 治療・処置を受ける患者の看護		
	3	検査を受ける患者の看護 化学療法（薬剤・放射線）、食事療法（中心静脈栄養・胃薬）		
	4	イレウス疾患に対する検査と看護 腹腔鏡手術を受ける患者の看護		
	5	周手術期について 胃癌		
	6	大腸癌 人口肛門（ストマ）の増設と看護		
	7	胆嚢・肝臓・膵臓の疾患と看護		
学科終了試験				
【使用テキスト】 *医学書院				
A-①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学[3]				
A-②系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1]				
B-①系統看護学講座 消化器 成人看護学[5]				
B-②周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 60%、単元B 40%				
A内訳：筆記試験 40%、授業態度及び提出物等 60% B内訳：筆記試験				
・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格)				
・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員と実務経験がある看護師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・成人看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 2名
授業科目名	成人看護学方法Ⅱ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<目的>				
単元A	成人期にある対象の健康問題を捉え、健康の状態に応じた看護を学ぶ。 健康障害をもちながら生活する人のセルフマネジメントに向けての看護について学ぶ。 1. 運動器に障害をもち周手術期、回復から慢性期への経過をたどる対象への援助の方法を学ぶ。 2. 運動器に障害をもつ対象の病態、症状、検査、治療、看護について考えることができる。 3. 運動器の障害による機能障害・運動障害をもつことによる身体・心理・社会的な問題について学ぶ。			
単元B	成人のセルフケアの再獲得に向けての看護について学ぶ。 健康障害をもちながら生活する人のセルフマネジメントに向けての看護について学ぶ。 1. 内分泌・代謝系に障害をもち慢性期の経過をたどる対象への援助の方法を学ぶ。 2. 内分泌・代謝系に障害をもつ対象の病態、症状、検査、治療、看護について考えることができる。 3. 内分泌・代謝系障害と対象の生活習慣について考えることができる。			
<目標>				
単元A	1. 運動器疾患をもつ患者に対する援助技術の基本的な知識を理解できる。 2. 運動器疾患に伴って生じる様々な症状や検査を受ける患者の看護を理解できる。 3. 運動器疾患に対する保存療法を受ける患者の看護について理解できる。 4. 手術侵襲と生体反応を理解できる。 5. 術後合併症とその予防のための看護を理解できる。 6. 周手術過程に応じた看護を理解できる。 7. 運動器の手術を受ける患者の看護を理解できる。 8. 大腿骨頸部骨折による人工骨頭置換術後の患者（成人期）の看護を展開できる。			
単元B	1. 内分泌・代謝系の障害による症状・病態について理解する。 2. 内分泌・代謝系障害の特徴的な治療、検査を理解する。 3. 内分泌・代謝系の障害をもつ患者の看護上の問題とその看護を理解する。 4. 中年期で2型糖尿病患者への看護について考えることができる。			
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	運動器の看護を学ぶにあたって A医療の動向と看護 B患者の特徴と看護の役割 C姿勢・動作モデルとしての看護の役割 疾患をもつ患者の看護①大腿骨骨幹部骨折患者の経過と看護②大腿骨頸部骨折・転子部骨折患者の看護 保存療法を受ける患者の看護①骨折について②牽引療法を受ける患者の看護		講義
	2	疾患をもつ患者の看護 ③関節リウマチ患者の経過と看護 ④腰痛患者の看護 ⑤腰椎椎間板ヘルニア患者、脊柱管狭窄症患者の看護（脊髓造影検査）⑥脊髓損傷患者の看護⑦関節造影検査		
	3	援助のためのおもな知識と技術 ①身体機能の評価 ②日常生活動作（ADL）の評価③基本肢位・良肢位と廃用症候群の予防 ④セルフケアを支える道具の活用 ⑤運動器リハビリテーション ⑥運動器疾患と保健・医療・福祉制度		
	4	症状に対する看護 ①疼痛、循環・神経障害 ②骨折（外傷）がもたらす出血性ショック 保存療法を受ける患者の看護 ③ギプス固定患者、副子固定患者の看護		
	5	周手術期看護 ①手術前の看護 ②手術侵襲と生体反応		
	6	周手術期看護 ③手術後の看護		
	7	周手術期看護 ④疾患をもつ患者の看護、看護過程事例展開の実際		
B	1	内分泌・代謝系に疾患をもつ患者の看護 垂体・甲状腺		講義
	2	・副甲状腺 ・副腎 ・脂質異常症・肥満		↓
	3	糖尿病 ①概論、診断、検査		↓
	4	②患者の特徴と心理、治療（食事・運動）		↓
	5	③治療（薬物）、血糖測定		血糖測定の実践
	6	④合併症、患者指導		DVD
	7	まとめ		
学科終了試験				
【使用テキスト】 *医学書院				
A：専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学[10周術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 B：系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学[6]				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50% 筆記試験 100%				
・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師2名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・成人看護学	単位数・時間数	1単位 15時間	専任教員
授業科目名	成人看護学方法Ⅲ	授業回数	7回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p><目的></p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期にある対象の身体・心理・社会・霊的特徴を捉え、対象及びその家族の看護を学ぶ。 ・血液・造血器疾患における健康破綻に陥った成人期にある対象の看護を学ぶ。 <p>1 がん患者の終末期にある対象の特徴を捉え、終末期看護について学び合い、考えを持つことができる。</p> <p>2 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護を学ぶ。</p> <p>3 貧血・白血球減少・出血傾向を有する患者の特徴と看護活動を学ぶ。</p> <p>4 急性白血球の病態生理と症状を踏まえ、患者に行われる検査・治療における看護について学ぶ。</p> <p>5 白血病患者の看護を各病期に基づいて学ぶ。</p> <p><目標></p> <p>1 終末期にある対象の特徴を捉え、苦痛の緩和、QOLに向けての看護について考察することができる。</p> <p>2 死生観を培うことができ、終末期にある患者とその家族への関わりを考えることができる。</p> <p>3 血液・造血器の解剖生理の基礎知識を想起し、理解する。</p> <p>4 貧血・白血球減少症のある患者の特徴を理解し、その看護の実際を理解する。</p> <p>5 急性白血病患者に行われる検査・治療における看護活動を理解する。</p> <p>6 急性骨髄性白血病患者の看護を各病期に基づいたアセスメントの視点を理解できる。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	腫瘍とは何か 1) 腫瘍の分類 2) がん腫と肉腫 疼痛とは何か 1) がん性疼痛 2) 倦怠感 がん患者のQOLを高めるためのケア～終末期に焦点を当てて～ 意思決定支援（倫理的判断も含む）			講義 個人ワーク 共同学習 小テスト 病態関連図の ワークシート
2	事例検討 ～痛みのあるがん患者の看護～			
3	終末期にある患者とその家族への関わりと態度を考える 看護のまとめ			
4	事例検討 ・2・3回目の協同学習の続き ・～がん患者の心理面への看護～			
5	血液の成分と機能 1) 血液の成分 2) 血液のはたらき 3) 造血と造血因子 止血機構 1) 凝固のメカニズム 2) 線溶のメカニズム 貧血のある患者の特徴と看護 1) 貧血の病態生理 2) 各貧血における主要な 症状 3) 看護活動			
6	白血球減少のある患者の特徴と看護 1) 患者の問題 2) 看護活動 白血病とは 1) 造血のしくみと急性白血球の発症 2) 病態と分類 症状と診断 1) 白血球の症状 2) 検査と診断 (1) 骨髄穿刺を受ける患者の看護 白血球の治療 1) 治療の基本			
7	2) 化学療法 3) 幹細胞移植を受ける患者の看護 急性骨髄性白血病患者の各病期に基づいたアセスメントの視点 1) 寛解導入期の看護 2) 寛解期の看護 3) 再発期の看護 白血球の終末期看護 治癒が期待できなくなったとき			
	学科終了試験			
【使用テキスト】				
<p>・専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学[4] ・系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院</p> <p>・終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社</p>				
【単位認定方法】				
<p>筆記試験 70%、共同学習参加姿勢及び提出物等 30%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得) 				
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・老年看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師
授業科目名	老年看護学概論	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>我が国の高齢化率は、2005年(平成17年)ごろより20%を超え、現在(2019年)は28.4%となっている。これは看護師が高齢者を対象として看護を行うことが非常に多いという臨地の状況にも確実に現れている。しかし、学生の育ってきた家庭状況をみると、3世代世帯の減少によって、祖父母など高齢者との生活体験が乏しい学生が増えているという事実もある。</p> <p>当該科目においては、老年期の対象自身の身体、社会的変化と、これらに対する心理面での反応の特徴を知るということを中心に、その対象個人をとりまく社会的状況と、医療・福祉の概要をふまえて老年期のライフサイクルを学ぶ。そしてこれを老年期にある人々の健康および健康障がいに関わる看護の基盤とすることを目標とし、教授していく。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護を学ぶ入り口～なぜ老年看護学を学ぶのか～ 老年看護学の構造と成り立ち 看護師に求められる役割 ・「老いる」ということ 加齢と老化 加齢に伴う身体・精神・社会面の変化 			講義
2	<ul style="list-style-type: none"> ・老いを生きるということ 「高齢者」の定義 発達と成熟 スピリチュアリティ 老年看護に役立つ理論(発達課題 発達理論と離脱理論 ニード論 危機理論 セルフケア理論 コンフォート理論…) ・高齢者の性 高齢者の社会参加 			講義 GW
3	*高齢者の疑似体験 ペアで高齢者体験 片麻痺体験 視覚・聴覚障がい体験			演習 DVD視聴 レポート作成
4	おむつ装着体験(当事者・介護者両方の体験) *DVD視聴「幸せな時間」			
5	・高齢者体験の振り返り			GW 発表
6	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による身体機能の変化とアセスメント(1) ①看護職が行うフィジカルアセスメント②皮膚とその付属器 ③視聴覚とその他の感覚器④循環器系・心血管系の変化 			講義
7	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による身体機能の変化とアセスメント(2) ⑤呼吸器系⑥消化器系⑦ホルモン分泌⑧泌尿生殖器と性⑨運動器系 			講義
8	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者によくみられる身体症状とアセスメント ①発熱②痛み③掻痒④脱水(高齢者の体水分量)⑤嘔吐⑥浮腫⑦倦怠感 			講義
9	<ul style="list-style-type: none"> ・パーソンセンタードケア 認知症ケアに対する考え方の変化 DVD視聴「パーソンセンタードケアの視点」 事例検討 			講義 GW DVD視聴
10	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のメンタルアセスメントと認知症 不安 うつ せん妄 認知症(中核症状と周辺症状) 動画視聴「認知症の心に寄り添うバリデーション」 			講義
11	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の統計的輪郭 統計 保健医療福祉の動向 人口構成 世界構造 			講義
12	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を支える制度 介護保険 介護予防事業 地域包括ケアシステム 高齢者の医療費(医療保険) 			講義
13	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の権利擁護(アドボカシー) エイジズム 高齢者虐待 身体拘束 成年後見制度 ノーマライゼーション ・家族論 高齢者とヘルスプロモーション 地域包括ケア 家族の看護 			講義
14	・高齢者のエンドオブライフケアを考える アドバンスケアプランニング			講義 GW
	学科終了試験			
【使用テキスト】				
・専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・国民衛生の動向 他				
【単位認定方法】				
筆記試験 85%、レポート 10%、グループワーク等への取り組み 5%				
・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格)				
・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある保健師・看護師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・老年看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 2名
授業科目名	老年看護学方法Ⅰ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>加齢に伴う身体的変化や、障害の特徴を理解し、健康の回復に関わる看護について、その具体的な方法、注意点・留意点なども含め、臨床看護の総論として理解する。また、生活機能の視点から対象のアセスメントができ、それを老年看護実践へと発展させていく基礎的能力を養う。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	日常生活を支える基本的活動 ①基本動作と環境のアセスメント ②転倒のアセスメントと看護③廃用症候群		講義
	2	食事・食生活 ①高齢者における食生活の意義②高齢者に特徴的な変調 ③食生活のアセスメント④食生活の支援		
	3	排泄 ①高齢者の排泄ケアの基本②排尿障害のアセスメントとケア ③排便障害のアセスメントとケア		
	4	清潔 ①清潔の意義②高齢者に生じやすい清潔に関する健康問題 ③清潔のアセスメント④清潔の援助		
	5	生活リズム ①高齢者と生活のリズム②高齢者に特徴的な変調 ③生活リズムのアセスメント④生活リズムを整える看護		
	6	コミュニケーション ①高齢者とのコミュニケーションと関わり方の原則 ②コミュニケーション能力のアセスメント ③高齢者の状態状況に応じたコミュニケーションの方法		
	7	高齢者のリスクマネジメント ①高齢者と医療事故②高齢者特有のリスク要因 ③高齢者が見舞われやすい医療事故と対応の実際		
B	1	第6章 健康逸脱からの回復を促す看護 B 身体疾患のある高齢者の看護 ①脳卒中②心不全		講義
	2	B 身体疾患のある高齢者の看護 ③糖尿病④慢性閉塞性肺疾患⑤がん ⑥パーキンソン病・パーキンソン症候群		
	3	B 身体疾患のある高齢者の看護 ⑦インフルエンザ⑧肺炎⑨骨粗鬆症⑩骨折		
	4	C 認知機能障害のある高齢者の看護 ①うつ②せん妄		
	5	C 認知機能障害のある高齢者の看護 ③認知症		
	6	第7章 治療を必要とする高齢者の看護		
	7	第8章 エンドオブライフケア		
学科終了試験				
【使用テキスト】 *医学書院				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学				
系統看護学講座・専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論				
【単位認定方法】評価割合；単元A 50%、単元B 50% 筆記試験 100%				
<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得) 				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師2名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名	
分野等	専門Ⅱ・老年看護学	単位数・時間数	1 単位 30 時間	外部講師 2名	
授業科目名	老年看護学方法Ⅱ	授業回数	14回 + 試験		
【ねらい・授業目的・目標】					
老年期にある対象の健康問題をとらえ、健康の状況に応じた看護を理解する					
単元A	1. 呼吸器に障害をもつ老年患者の身体的問題、心理・社会的問題を理解する 2. 慢性期にある患者の看護を中心に、苦痛の緩和、生活を支えるという視点および症状コントロールと治療にともなう看護について学ぶ				
単元B	1. 脳・神経系に障害をもつ老年患者の身体的問題、心理・社会的問題を理解する 2. 脳・神経系に障害をもつ患者の看護の特徴と援助方法について理解する				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態	
A	1	COPD ・病態 ・診断		講義	
	2	包括的呼吸リハビリテーション			
	3	・酸素療法 ・リハビリテーション ・栄養療法 ・薬剤療法			
	4	・在宅酸素療法			
	5	COPDの合併症 社会制度			
	6	関連図 ～ 看護問題抽出 ～ 看護計画			GW・発表
	7	事例展開のまとめ			自己学習
B	1	脳・神経 成人看護学 [7] 第1章 脳・神経の看護を学ぶにあたって		講義	
	2	人体の構造と機能 解剖生理学 の復習 脳・神経 成人看護学 [7] 第2章 脳・神経系の構造と機能			
	3	脳・神経 成人看護学 [7]			
	4	第6章 患者の看護 症状・障害をもつ患者の看護			
	5	脳・神経 成人看護学 [7] 第6章 患者の看護 治療・処置を受ける患者の看護			
	6	脳・神経 成人看護学 [7] 第6章 患者の看護 疾患をもつ患者の経過と看護			
	7	脳・神経 成人看護学 [7] 第6章 患者の看護 疾患をもつ患者の経過と看護 脳・神経の看護 振り返り			
		学科終了試験			
【使用テキスト】 *医学書院					
A：専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器					
B：専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経					
系統看護学講座・専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学					
【単位認定方法】 評価割合；単元A 60%、単元B 40% 筆記試験 100%					
A内訳： 筆記試験、看護過程の展開 B内訳： 筆記試験					
<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得) 					
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師2名が担当					

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名	
分野等	専門Ⅱ・小児看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員 外部講師	
授業科目名	小児看護学概論	授業回数	14回＋試験		
【ねらい・授業目的・目標】					
単元A	<p>子どもは成長・発達していく存在である。年齢や健康レベルにかかわらず、権利を有し行使できる主体である。しかし近年子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、虐待などの健康問題が増強してきている。その状況をふまえて、各時期における「子ども」を心身ともに意識して「理解」し併せて「小児看護の視点」を学ぶ。またその知識を看護の現場で使い対象を看護の視点でアセスメントできるように学ぶ。</p> <p>目的：小児各期の特徴を理解し子どもの成長・発達における健康の意義、健康の保持増進、成長を促すため役割を理解する。</p> <p>目標：1. 小児看護の対象として子どもと家族を理解する。2. 子どもを取り巻く社会概要から小児看護の専門性を理解する。3. 小児看護で用いられる各理論を理解することができる。4. 小児の栄養の特徴を発達段階に合わせて理解できる。5. 小児各期の形態的・身体生理の特徴を理解する。6. 小児各期の基本的な生活習慣獲得過程と支援方法を理解する。7. 子どもの発育・発達の評価とその結果のもつ意味を理解する。8. 子どものフィジカルアセスメント技術の基礎を習得する。9. 成長・発達段階から入院患児の安全を理解する。</p>				
単元B	<p>子どもの生活習慣病の増加、こころの問題、育児不安、児童虐待など子どもを取り巻く社会や家族に関わる側の問題もあって、子どもに健康問題が増加している面もある。現代の子どもは健やかに発達生きていくことが困難な状況におかれている。単に病気や障害のみの視点ではなく、子どもに支援していく一環として社会を含めた視野で子どもへの看護を考えていく必要がある。その状況をふまえ、子どものみならず、子どもを育む家族も看護の対象と捉え、医療のみならず、法律的な部分も含んだ看護の展開を学ぶ。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態	
A	1	○小児看護の対象・目標・役割：健やかな成長・発達、成長・発達の促進、健康増進、家族支援 ○子どもを取り巻く社会・医療・家族・環境：子ども子育てビジョン（チルドレンファースト・少子化対策から子ども子育て支援へ）、少子化の意味と未来に向けて、疾病構造の変化、小児医療の現状・課題（在宅療養含）		講義 演習① 演習② 講義 演習③ 演習④ 講義 演習⑤ 講義 演習⑥ 演習⑦ 小テスト 講義 演習⑧ 講義	成長・発達カレンダー作成
	2				
	3	○小児看護で用いられる理論：エリクソン自我発達理論 ○理論を小児看護に活用する ○ピアジェ認知発達理論 家族理論			
	4				
	5	○小児にとっての栄養の意義 ○各発達段階の栄養の特徴と看護 ○生活習慣病の増加の要因と看護			
	6	○新生児の成長・発達と看護：形態的・身体生理の特徴（呼吸・循環・体温・免疫他） ○乳児期の成長・発達と看護：形態的・身体生理の特徴、運動機能の発達、心理・社会的発達、家族への看護 ○幼児期の成長・発達と看護：形態的・身体生理の特徴、基本的な生活習慣の獲得、遊び、情緒・社会性の発達・家族への			
	7				
	8	○学童・思春期の成長・発達と看護：形態的・身体生理の特徴、情緒・社会性の発達、心の問題と環境が与える諸問題			
	9	○子どものフィジカルアセスメント 技術～コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、アセスメント～一般状況、呼吸・心臓・腹部 ○インフォームド・アセスメント、プレパレーション ○フィジカルアセスメントの技術 バイタルサイン測定（呼吸、脈、体温、血圧、頭囲、胸） ○安全について：ベッドからの転倒・転落			
B	1	小児看護の特徴と理念 B小児と家族の諸統計 C小児看護の変遷 D小児看護における倫理		講義	
	2	子どもの成長・発達 A成長・発達とは B成長・発達の進み方 C成長・発達に影響する因子 D成長の評価 E発達の評価			
	3	家族の特徴とアセスメント A子どもにとっての家族とは B家族アセスメント			
	4	子どもと家族を取り巻く社会 A児童福祉 B母子保健 C医療費の支援			
	5	子どもと家族を取り巻く社会 D予防接種 E学校保健			
		学科終了試験			
【使用テキスト】					
・専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ・国民衛生の動向					
【単位認定方法】 評価割合；単元A 60%、単元B 40%					
A：筆記試験60%（学科終了試験50%、小テスト10%）、成長・発達カレンダー30%、演習内容/取り組み10% B：筆記試験90%、授業に臨む姿勢10%（欠席の場合－5点）					
・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施（70点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。（次年度、再取得）					
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員と実務経験がある看護師・保健師が担当					

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・小児看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 3名
授業科目名	小児看護学方法Ⅰ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>昨今、子どもの生活習慣病の増加・こころの問題・育児不安・虐待など、子どもの健康問題の増加してきています。しかも学生そのものが少子化の影響で核家族だったり、子どもと接する機会が少なかったりという状況に陥ることも考えられます。身近に体験したり見たことのある病気だけでなく、全身にまつわる小児の疾患や治療を、小児の特徴・成長・発達する途上であることをふまえて学ぶ。また国家試験を意識した問題を取り入れながら、学習の定着を図る。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	第1章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護		講義
	2	第2章 新生児の看護		
	3	第3章 代謝性疾患と看護 第4章 内分泌疾患と看護		
	4	第5章 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護		
	5	第6章 感染症と看護 第7章 呼吸器疾患と看護		
	1	第8章 循環器疾患と看護		
	2	第9章 消化器疾患と看護 第10章 血液・造血器疾患と看護		講義
B	1	第11章 悪性新生物		講義
	2	第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患		
	3	第13章 神経疾患		
	4	第14章 運動器疾患		
	5	第15章 皮膚疾患 第16章 眼疾患		
	6	第17章 耳鼻咽喉疾患 第18章 精神疾患		
	7	第19章 事故・外傷 まとめ		
		学科終了試験		
【使用テキスト】				
<p>・専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護医学書院 ・国民衛生の動向</p>				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50%				
<p>評価方法：筆記試験 100%</p> <p>・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格)</p> <p>・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得)</p>				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある小児科医師2名と医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・小児看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員 2名
授業科目名	小児看護学方法Ⅱ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
単元A	<p>目的：・小児期の主な疾患・障がいを理解し看護に必要な知識を学ぶ。 ・健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響について学ぶ。 ・発達段階や病期に適した看護が実践できるための知識、技術を学ぶ。</p> <p>目標：1. 生体機能に影響を及ぼす要因を理解し異常や障がいがおこるメカニズムについて理解できる。 2. 主要疾患の病因・病態・治療・看護が理解できる。 3. 患児の自覚症状や身体所見と関連した病態生理の知識を理解する。 4. 健康障害や入院が子どもと家庭におよぼす影響を理解する。 5. 検査、処置を受ける子どもの看護を理解する。</p>			
単元B	<p>目的：健康を障害されることが、子ども・家族にとってどのような意味があるのか、子どもと家族の体験について学び、子どもと家族を一つの単位として捉えることにより、健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、援助方法について、小児看護を理解することができるようになる。</p> <p>目標：1. 健康を害することが子どもや家族にとってどのような体験なのか理解することができる。 2. 成長発達段階を踏まえ、症状の観察・アセスメントを理解する。 3. 健康障害をもつ子どもや家族の看護について、基本的な考え方や理論に基づき、看護実践ができる。</p>			
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	川崎病の病態生理 自然免疫、適応免疫、細胞免疫、液性免疫		講義 aワーク
	2	○病気・障がいをもつ子どもと家族の看護 ○子どもの状況に特徴づけられる看護 ○子どもの権利を考えた上で検査や処置を受ける子どもと家族への援助方法 ○プレパレーションの概念と具体的方法		講義 bワーク
	3	○免疫・アレルギーの疾患が子どもと家族に及ぼす影響や問題と看護 ①2歳女児「Ⅰ型糖尿病」		講義
	4	○ネフローゼ症候群が子どもと家族におよぼす影響や問題と看護 ②7歳男児「ネフローゼ症候群」		講義 cワーク
	5	○活動制限（安静、体動制限）が必要な子どもと家族の看護		講義 dワーク
	6	○子どもの周手術期の特徴と必要な看護、手術が子どもと家族におよぼす影響や問題 ③5歳男児「アデノイド除去術」		講義 eワーク
	7	○低出生体重児と家族の看護 ○新生児疾患のある患児、遺伝性疾患および染色体異常がある患児のアセスメント		講義
B	1	健康障害をもつ子ども・家族への看護① 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 ピアジェの認知発達理論 小児看護学実習Ⅱへの意味づけ		講義 GW 事例課題提示
	2	健康障害をもつ子ども・家族への看護② 検査や処置を受ける子どもとその家族への看護 手術を受ける子どもと家族への看護 プレパレーション・痛み		講義 事例 個人ワーク
	3	健康障害をもつ子ども・家族への看護③ 急性期にある子どもとその家族への看護 ・発熱 ・脱水（下痢・嘔吐） ・痙攣 ・呼吸困難		講義 事例 個人ワーク
	4	健康障害をもつ子ども・家族への看護④ 慢性期にある子どもとその家族への看護 ・子どもの権利とは ・エンパワメント ・セルフケア理論		講義 事例 個人ワーク
	5	健康障害をもつ子ども・家族への看護⑤ 終末期にある子どもとその家族への看護 子どもを亡くした親とその親の体験に触れる		講義 事例 個人ワーク GW事前学習提示
	6	事例展開【川崎病】		講義
	7	個人ワーク後 GW 看護計画立案・実践 まとめ		GW 事例発表
		学科終了試験		
【使用テキスト】 医学書院				
・専門Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論・専門Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50%				
A：筆記試験50点、病態関連図①～③30点、取り組み（a～eワーク評価含む）20点 B：筆記試験、課題提出、GW参加度 ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施（70点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。（次年度、再取得）				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある専任教員2名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・母性看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	専任教員
授業科目名	母性看護学概論	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
目的：母性看護の役割拡大をふまえ基盤となる概念を理解し、女性の一生を通じた母性の保持・増進および次世代の健全育成を目指す看護について学ぶ。				
目標：				
1) 看護の基盤となる概念を理解することができる。				
2) 母性看護の遍歴、統計を学び、母性看護の現状を理解することができる。				
3) 母性看護の対象の特徴を学び、必要な看護技術を理解することができる。				
4) 女性のライフステージ各期における健康問題と看護を理解することができる。				
5) リプロダクティブヘルス/ライツについて理解することができる。				
6) 命について考え、自分の思いを述べることができる。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	母性看護の基盤となる概念 女性の一生を考える 年表作成 母性・父性とは			講義 ワーク
2	母性看護の在り方 母性看護における倫理 「子どもを選ばないことを選ぶ」大野明子 編著 ※出生前診断について考える			講義
3	母性看護の対象理解 家族の発達・機能 母性の発達・成熟・継承			講義 視聴覚教材
4	社会の母性看護に必要な技術 母性看護に使われる看護技術			講義 ワーク
5	変遷と現状 母性看護の変遷 母子保健統計 ※作成した女性の一生年表から考える			
6	組織と法律 施策 対象を取り巻く環境 ※作成した女性の一生年表から考える			
7	命について考える			講義
8	女性のライフステージ各期における看護 各期の看護 まとめ ※課題：各期の特徴のまとめ			講義 ワーク
9	各期の看護 まとめ			GW 発表
10				
11				
12				
13	グループ発表 まとめ			
14	リプロダクティブヘルスケア 看護の実際			講義 GW
	学科終了試験			
【使用テキスト】				
・専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学〔1〕 医学書院 ・国民衛生の動向				
【単位認定方法】				
筆記試験 80%、レポート「命について考える」20% ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・母性看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 2名
授業科目名	母性看護学方法Ⅰ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
目的：妊娠前、妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期の正常経過および異常経過について理解する。				
目標	＝単元A＝・妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期における正常経過を理解する。 ＝単元B＝1. 妊娠前からの女性・家族への支援と医療を理解する。 2. 妊娠前、妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期の異常を理解する。			
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	女性ホルモンと月経 妊娠の成立・定義 胎児の発育・生理・付属物について		講義
	2	妊娠中のホルモン及び母体の変化 妊娠経過とその管理 胎児の発育と健康の管理 妊婦体験		
	3	胎児心拍数モニタリング 分娩の要素 分娩の経過①		
	4	分娩の経過② 分娩への心がまえ 分娩時の健康状態のアセスメントと管理		
	5	分娩直後の早期母子接触 産褥期の生理と管理		
	6	新生児の生理と管理 新生児の全身観察方法		
	7	母乳育児について まとめ		
B	1	妊娠前・初期の異常 不妊治療について（遺伝相談、検査、治療） 妊娠初期検査（感染症など）		講義
	2	妊娠悪阻 流産 異所性妊娠		
	3	切迫早産 妊娠高血圧症候群（HDP） 子癇 胎盤の異常（常位胎盤早期剥離・前置胎盤・癒着胎盤） GDM		
	4	分娩の異常 陣痛の異常（微弱陣痛、過強陣痛） 産道の異常（児頭骨盤不均衡） 回旋異常 急速遂娩 弛緩出血		
	5	胎児機能不全 帝王切開について		
	6	産褥の異常 子宮復古不全 産後鬱について（スクリーニング、対策） 産褥熱 乳腺炎		
	7	新生児の異常		
		学科終了試験		
【使用テキスト】				
病気が見える vol10 産科 メディックメディア				
副：系看 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50%				
A内訳：出席、筆記試験 B内訳：筆記試験				
・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある助産師2名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ・母性看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 専任教員
授業科目名	母性看護学方法Ⅱ	授業回数	14回＋試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>目的＝单元A＝ 母親や親となる家族を理解するための心理・社会的特徴を理解する。また、母性看護の対象となる人のアセスメント、および看護を学ぶ。 母性看護の対象となる人を統合体として理解することができる。</p> <p>＝单元B＝ マタニティサイクルにおける対象の特性を理解し、ウェルネスの思考で看護過程を展開する事ができる。 さらに本来備わっている力を引き出し、より良い健康状態へ促進するためのケアについて考える事ができる。</p>				
<p>目標＝单元A＝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠前、妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期における心理・社会的特徴を理解する。 2. 妊娠前、妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期におけるアセスメントおよび看護を理解する。 3. 妊娠、分娩、新生児、産褥の異常のある患者の看護を理解する。 4. 実際に事例を展開することで、対象者を統合体として理解することができる。 <p>＝单元B＝</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期、分娩期、産褥期における心理・社会的特徴を理解できる。 2. 妊娠期、分娩期、産褥期・新生児におけるアセスメントおよび看護を理解できる。 3. 妊娠期から分娩期・産褥期・新生児まで、繋がっていることを理解できる。 4. ウェルネス志向について述べる事ができる。 5. ウェルネス志向で看護過程を展開することができる。 				
单元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	妊娠期の看護 妊娠前の看護 ——身体的・心理的特性		講義
	2	分娩期の看護		GW 講義
	3	妊娠期の看護		
	4	分娩期の看護 アセスメントと看護		
	5	新生児期の看護 新生児の生理 アセスメントと看護		講義
	6	産褥期の看護 身体的、心理社会的特性 母乳育児支援		GW 講義
	7	産褥期の看護 まとめ アセスメントと看護		
B	1	母性看護学における看護過程 ・母性看護の対象 ・マタニティサイクルにおける看護、対象の特徴 ・ウェルネス志向とは		講義 個人ワーク GW
	2	妊娠・分娩・産褥・新生児のつながり つながりを考えるワーク		
	3	現在にいたるまでのアセスメント 一般状況・妊娠期・分娩期		
	4	産褥期のアセスメント		演習
	5	産褥期の看護を考える ロールプレイ リフレクションシートの記入		
	6	新生児期のアセスメント		
	7	ウェルネス看護診断の表現方法 看護計画の立案 関連図の考え方		
	学科終了試験			
【使用テキスト】				
系看 専門分野Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院 病気が見える vol10 産科 メディックメディア				
【単位認定方法】 評価割合；单元A 40%、单元B 60%				
A内訳：筆記試験 B内訳：筆記試験50% 看護過程の展開50%				
<ul style="list-style-type: none"> ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得) 				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある助産師と臨床経験がある専任教員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ 精神看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 2名
授業科目名	精神看護学概論	授業回数	14回 + 試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
単元A	<ol style="list-style-type: none"> 1. 欧米・日本の精神医療の変遷について概観し、それぞれの時代における特色を理解する。 2. 医療における患者の権利や精神障がい者の処遇をめぐる問題を理解できる。 3. 援助者・被援助者のあるべき関係について理解できる。 4. 地域生活における障がい者の権利擁護について理解できる。 5. 精神医療に関する法の変遷を理解し、精神科医療の問題点、法の改正に伴う患者の処遇を理解する。 6. ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割を理解できる。 7. 精神看護にかかわる資格認定、役割と活動の実際を理解できる。 			
単元B	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害も生活を構成する因子の1つであることを理解し、人間の健康を身体的・心理的・社会的な視点から捉えることができる。（生物・心理・社会モデルの視点の重要性を理解する） 2. 人間のこころを見る視点、その動きやストレスの影響、こころの防衛機制、その危機と回復など、こころのありようをめぐる基本的事柄を理解する。 3. 母子関係における相互交流的なコミュニケーションと情緒体験のプロセスについて理解する。 4. ライフステージ各期におけるメンタルヘルスの特徴を理解する。 5. 特筆すべき現代社会におけるこころのありようや、親や子どもが置かれている状況について理解し、その問題点を考える。 6. 心身相関について理解する。代表的な心身症の症状と看護の基本について理解する。 7. 現代社会における家族のありようや精神障害者を身内にもつ家族が置かれている状況について理解し、必要な支援を行うことの重要性を理解する。 8. 嗜好、依存と反社会的行動との関連を理解する。物質関連障害の看護の基本について理解する。 			
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1・2	看護の倫理と人権擁護		講義
	3・4	精神医療の歴史と看護		
	5・6	精神保健医療福祉をめぐる法律		
	7	ストレスマネジメントと精神科における看護師の役割		
B	1	・命にとって最も大切、重要なもの ・健康とは ・WHOの健康の定義 ・ヒトを理解するには ・5大疾病 ・こころのバリアフリーとは ・精神保健活動における3つの予防概念		講義
	2	・ひとのこころの様々な理解の仕方（・脳の構造からの理解・こころの働きからの理解・フロイトの理解）・看護の視点の理解とその努力を続ける姿勢の維持・こころと環境（・欲求・マズローの欲求5段階説）・発達と発達課題・ストレス問題・自己防衛機制		
	3	・対象関係論・母子関係の発展・こころの安全基地・発達理論あれこれ（ライフステージとこころの病）		
	4	・現代社会に生きる我々の様々な危機的問題・自傷行為、自死・不登校・DV・児童虐待・ハラスメント・晩婚化・社会の少子高齢化		
	5	・ストレス、フラストレーション関連障がい・神経症、心身症問題・現代社会と家族関係・家族関係とこころの病・精神疾患と家族関係・家族の機能		
	6	・依存と嗜癖・物質関連障がいと妥当適切な支援・ギャンブル依存症・ゲーム障害・多重嗜癖問題		
	7	・振り返り学習・全体の要約・小テスト、演習		
		学科終了試験		
【使用テキスト】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・国民衛生の動向 				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50%				
A：筆記試験 B：筆記試験90% 授業参加状況等平常点10% ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師、臨床心理士・社会福祉士が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ 精神看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 4名
授業科目名	精神看護学方法Ⅰ	授業回数	14回＋試験	

【ねらい・授業目的・目標】

単元A	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患や精神症状についての基本的知識および看護の視点を理解する。 2. 精神科における検査とその必要性を理解できる。 3. 脳の変化と障害との関係についての基礎知識を学ぶ。 4. 医学的検査時の患者の介助や注意点を理解できる。 5. 心理検査の種類と特徴を理解できる。 6. 精神科における治療がどのように行われているかを理解できる。 7. 薬物療法で使用されている薬について学び、作用と有害反応を理解できる。 8. 主な精神療法とそれぞれの特徴を理解できる。 9. 主な社会療法とそれぞれの特徴を理解できる。 10. 電気けいれん療法の適応と注意点を理解できる。
単元B	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を全人的に把握するために必要な系統的情報の内容を理解する。 2. 精神的に障害をもつことにより引き起こされる日常生活行動のレベルについて理解し、意味について考える。 3. 対象関係の中で生じてくる葛藤や問題を、個々人の生育歴と照らし合わせながら理解できる。 4. 精神科における援助の特徴と意義を理解し、その具体的な方法論を考えることができる。 5. 生活をとおして学習する患者にとっては、援助者自身が治療的環境の一部であることを理解する。 6. 医療における患者の権利や処遇をめぐる問題を理解し、精神障害者をめぐるアドボカシーの考え方を学ぶ。 7. 精神病理と同時に、その人の健康な部分を理解することの意味を知る。 8. 人間関係の中に成長と治療の要因があることを知る。 9. 自分自身の傾向を知る。

単元	授業回数	【授業内容】	学習形態
A	1	精神科総論	講義
	2	統合失調症・神経発達症	
	3	抑うつ障害と双極性障害 不安障害 強迫性障害	
	4	神経認知症	
	5	摂食障害 睡眠障害	
	6	ストレス因関連障害 解離性障害 身体症状症	
	7	物質関連障害 パーソナリティ障害 身体疾患と精神疾患	
B	1	精神科看護における対象の理解 ・精神科での援助におけるアセスメントの視点 ・治療の場の人間関係	講義
	2	精神科看護におけるケアの方法 ・「治療的関わり」の考え方 ・日常生活行動の援助	
	3	精神科看護におけるケアの方法 ・服薬治療に関わる援助	
	4	入院環境と治療的アプローチ ・治療の場としての精神科病棟 ・治療的環境を整える ・精神科病棟でのミーティング：事例から考える	
	5	「地域で暮らす」を支える ・日本における精神障害者と精神病床の現状 ・「入院医療」から「地域社会」での生活へ	
	6	「地域で暮らす」を支える ・地域生活を支える社会資源の活用 ・地域生活（移行）支援の実際	
	7	救急医療現場における患者支援と精神的関わり ・自殺企図により救急搬送される患者 ・急性薬物中毒で救急搬送される患者	
		学科終了試験	

【使用テキスト】

・ナーシング・グラフィカ精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版

【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50% 評価方法：筆記試験

・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格)
・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。(次年度、再取得)

【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある精神科医3名と看護師が担当

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
分野等	専門Ⅱ 精神看護学	単位数・時間数	1単位 30時間	外部講師 専任教員
授業科目名	精神看護学方法Ⅱ	授業回数	14回 + 試験	
【ねらい・授業目的・目標】				
単元A	1. 精神科の病棟に入院している患者の実際の生活の様子、出来事を見ながら、病棟の中での看護師はいたいどんな関わりや付き合いができるのかを考えていく。 2. パーソナリティ障害・うつ病・パニック障害・摂食障害・被虐待児症候群といった疾患名がついている患者の特徴を考えながら、それぞれの看護について考える。			
単元B	精神看護学概論・精神看護学方法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を活用し、精神に疾患をもつ人を理解し、必要な看護を考えることができる。（統合失調症患者 事例展開） 1. 事例から看護に必要な情報を収集、アセスメントし精神疾患をもつ対象を理解することができる。 2. 対象の問題を理解し、必要な看護を考えることができる。（看護計画立案）			
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態（講義、GW、PP、DVD、等）
A	1	パーソナリティ障害患者の看護の実際		講義・PP
	2	うつ病患者の看護の実際		講義・PP
	3	パニック障害患者の看護の実際		講義・PP
	4	摂食障害患者の看護の実際		講義・PP
	5	被虐待児症候群・解離性障害患者の看護の実際		講義・PP
	6	臨地実習から学ぶ		講義・PP
	7	まとめ		講義・PP・DVD
B	1	精神科看護：オレムセルフケア理論 事例による看護過程の展開① 事例紹介 事例による看護過程の展開② 基本情報の整理 外見及び印象 精神・情緒状態の把握 事例による看護過程の展開③ セルフケアの整理 (情報とアセスメント) 事例による看護過程の展開④ セルフケアの統合と自我 関連図の作成 看護問題の抽出 事例による看護過程の展開⑤ 看護問題の抽出⇒問題リスト 看護計画立案 事例による看護過程の展開⑥ 看護計画実施 計画評価・修正 事例による看護過程の展開⑦ 場面の再構成		講義・個人ワーク・GW
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	学科終了試験			
【使用テキスト】				
①ナーシング・グラフィカ精神看護学② 精神障害と看護の実際 メディカ出版 ②精神看護学ノート（武井麻子著） Bのみ③精神科臨床看護技術の展開（中央法規）				
【単位認定方法】 評価割合；単元A 50%、単元B 50% 評価方法：筆記試験 ・総合評価として60点以上を合格とする ・不合格の場合再試験実施(70点以上合格) ・再試験でも合格できない場合は、単位落しとなる。(次年度、再取得)				
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある精神科医3名と看護師が担当				